

令和7年度

丹波篠山黒豆情報

第4号 令和7年10月21日 丹波篠山市・JA丹波ささやま・NOSAIひょうご丹波篠山事務所・丹波農業改良普及センター

＊丹波篠山市内6カ所に調査定点を設置しています。

【生育状況】（令和7年10月16日丹波篠山市定点調査結果より）

表1 枝豆期の生育調査結果(1株当りの平均数値)

調査項目	単位	令和7年値	平年値	平年比(%)	令和6年値 (参考)
主茎長	cm/株	77.8	72.9	107	74.9
全重	g/株	2207.8	1,786.5	124	1,536.9
主茎節数	節/株	18.8	17.8	105	18.6
一次分枝数	枝/株	9.5	9.3	102	13.4

表2 枝豆期の収量調査結果（1株当りの平均数値）

単位：莢（莢数）・g（莢重）

	1粒莢		2粒莢		3粒莢		稔実莢		外莢	
	数	重	数	重	数	重	数	重	数	重
令和7年値	98.6	223.6	78.3	326.9	3.5	21.7	180.4	731.0	29.8	33.1
平年値	80.0	209.8	66.6	315.7	1.9	10.2	149.5	538.3	30.7	34.9
平年比(%)	123	107	118	104	186	183	121	136	97	95
令和6年値 (参考)	71.8	172.9	37.1	192.1	1.9	10.2	110.8	375.2	45.5	48.4

＊稔実莢数＝1粒莢＋2粒莢＋3粒莢 ＊稔実莢重＝1粒莢重＋2粒莢重＋3粒莢重

＊平年値は、平成27年から令和6年の過去10年間の平均値

- ・主茎長は77.8cmで平年比107%、全重は平年比124%と高くなりました、節数は平年比105%と平年よりやや高く、一次分枝数は平年比102%となりました。
- ・稔実莢数は1株当たり180.4莢で平年比121%、稔実莢重は731.0gで平年比136%と平年より高くなりました。
- ・地域間に差があり、1株当たり多い地区は215.0莢、少ない地区は119.5莢と大きな差が見られます。

【今年度の莢付き】

- ・今年度は、梅雨明けが平年より22日早い6月27日となり、以降は高温少雨が続きました。定点ほ場では定期的なかん水が実施され、8月以降は定期的な降雨があったことから昨年より着莢率が向上しました。



【今後の管理】

1 葉取り作業

- ・霜が降り、葉が十分に黄化していることを確認してから作業を開始します。
- ・葉や茎等、株全体が緑状態での葉取り作業は、成熟不良による「しわ豆」の発生原因となるので避けましょう。

2 収穫・乾燥作業

- ・収穫作業は、株全体の莢が80～90%黄化したのを確認してから実施します。
- ・乾燥作業は、機械乾燥の場合は、事前にはほ場やビニールハウスで予備乾燥を行い、莢や株の熟度を揃えましょう。

3 台風対策

- ・台風にとまなう風雨により、ほ場の冠水や株の倒伏、茎葉の傷みなどが発生する恐れがあります。不用意にはほ場に入ると枝折れを助長するため、注意が必要です。倒伏した株は無理に起こすと折れてしまうため、無理に起こすことはやめましょう。
- ・排水口を開き、排水溝との接続を確実に行うなどの排水対策とともに、倒伏防止のための支柱やマイカー線等の点検を行いましょう。
- ・枝折れした傷口や泥の付着した部分から病原菌が侵入しやすくなります。台風通過後、風雨で茎葉がもまれた場合は、斑点細菌病等の予防のため、殺菌剤の散布を行いましょう（防除はJA栽培暦を参照）。

【気象】

